

【どちらも楽しく】



今年度はじめから、学校へボランティアに来てくださる方が一息つける場所として「ボランティアルーム」（仮称）を設けました。また、一息つくだけでなく、子どもたちがボランティアさんと一緒に遊べる場所になればいいなあという願いも持っています（加えてゆくゆくは、地域の方々の井戸端会議ができる場にもなれたらいいなあ、夢は膨らんでいます）。

まだまだ、部屋の環境は十分とは言えませんが、10月から、地域の方々のご協力を得ながら、毎週木曜日の2時間目に部屋を開放しています。今のところ、1・2年生を中心に遊びに行くようにしていますが、今後は、休み時間の子どもの居場所の1つとなり、ここにきて、ボランティアの方々とお話をして、次へのエネルギーを貯められる場所にもなってくれたらなあとも思っています。

（6年生の1クラスが総合的な学習の時間を使って、部屋をグレードアップしてくれるそうです。そのための買い出しに、先週は100円ショップにお出かけをしていました。どのような部屋に仕上がるのか、めちゃくちゃ楽しみです）

【「行け」と言ってくれ】

少し前の話になりますが、放課後、校長室のドアをノックする音が・・・（誰かしら、珍しいなあ）

「どうぞ」と言うと、4年生のA君がいました。

「どうしたあ」と訊くと、「金管行きたくない」との返事。

A君は金管バンドクラブのメンバーなのですが、どうも練習に出るのが億劫のようで、いつも担任の先生と、「行く」とか、「行かない」とか、さようならをした後に、すったもんだしている姿を、校長室から見える渡り廊下付近でよく見かけていました。

そこで、金管クラブの練習がある今日、担任の先生がいなかったため、校長室に現れたのでありました。

そんないきさつを知っていたので、A君には「がんばれ。行こうよ」「行った方が気持ちいいぞ」と参加を促しました。すると、「ええ～」とまんざらでもない顔で、しびしび練習会場に歩を進めました。私は、そんなA君の背中に「応援してるぞ。がんばれ」と、エールを送ったのでありました。



こうやって、やらなきゃいけないことはわかっているけれど、自分の力だけではどうしようもない時、誰かに背中を押してもらいたい。こんな時に、校長室の扉をノックしてくれたA君。子どもたちにとって、少しでもそんな存在に校長室になってくれていて少しホッとしました。誰でも、困ったら相談に来ていいんです。いつでも来てくださいね。

（少しぼーっとしていたら、11月になっていました。月1回発行を今年度2回逃しました。すみません。あと、子どもたちと過ごしてくださるボランティアさんも絶賛募集中です。学校までお問い合わせくださいませ）